

(様式1)

令和7年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三寺島小学校
校長名	関口 亮治

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語の物語文や説明文の読み取りにおいて、全学年、平均正答率が全国平均と同等かそれ以上となっている。また、ほとんどの学年で前年度より伸びている。・全学年、算数において、学力上位層の割合が50%以上である。・全学年、「思考・判断・表現」が前年度より伸びていたり全国平均を上回ったりしている。	<ul style="list-style-type: none">・漢字を書く問題において、全国平均に対する各学年の正答率の割合が前年度より下がっている。・文章を書く問題において、全国平均に対する4～6年の正答率の割合が前年度より下がっている。・学年が上がるにつれて、学力下位層の割合が高くなる傾向にある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・家族や友達、先生など周りの人から支えられていると感じている児童が多い。・「対話・話し合い」を肯定的に捉えている児童が多く、話し合う授業が楽しいと感じている児童が前年度より増加している。・「学級の絆」に関する項目で肯定的な回答が多いことから、学級への所属感を感じている児童が多いと考えられる。	<ul style="list-style-type: none">・肯定的な学級への所属感を基に「他者からの評価」や「発信力」を伸ばしていく必要がある。・肯定的な学級への所属感を基に「対人ストレス」を和らげていく必要がある。・学力が下位になるにつれて学習習慣に関する質問に対して否定的な回答が増加する傾向にある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ほとんどの児童は毎日宿題に取り組んでおり、毎回宿題を提出している。・ペアやグループでの話し合いを活発に行える児童が多い。・学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・宿題の取り組み方に個人差があり、家庭学習の習慣化には至っていない児童がいる。・学級全体で考えを共有する場面において、すすんで発言する児童が偏る傾向にある。・授業の振り返りが簡単な学習感想で終わってしまっている傾向にある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的に学習に取り組む態度を高めるための取組

○校内研究の充実

- ・本校の研究主題を「粘り強く学びに向かう児童の育成」とし、非認知能力の育成も踏まえて、粘り強く学習活動に取り組んだり、対話を通して自分の考えや学びを調整したりすることができるように実践を重ねる。
- ・ペア、少人数グループ、全体など対話や協働の仕方を学習内容や学習の進め方に合わせて工夫することで、児童が自分の考えを伝えやすくする。
- ・授業の終わりに振り返りの時間を設定し、授業のまとめや学習感想を言語化できるように指導の工夫をする。
- ・児童の興味や疑問を引き出す導入の時間、対話的になる学習活動など、昨年度の校内研究で実践・蓄積してきた単元づくり・授業づくりを生かして、問題解決型の授業を充実させる。

○特別支援教育の視点をもった指導の充実

- ・個別支援の工夫（学習環境の整備、ルビ付き教材や学習シートの工夫、問題数の選択、ICTの活用）を行うことにより、児童の学習意欲を高め、児童が学習にすすんで取り組めるようにする。

(2) 学習内容の定着が低位の児童の学習意欲を高めるための取組

○基礎・基本の学習の充実

- ・さんてらタイムの時間に、漢字、計算、言葉（語彙）の習得、短作文指導に全校で取り組む。
- ・墨田区学習状況調査の過去の問題を単元ごとに分割保存し、単元後のアウトプット課題として取り組む。
- ・ふりかえりシート、問題データベース、ミライシート等を活用して既習内容の定着を図る。

○放課後の学習機会の充実

- ・チャレンジ教室（1，2年）の実施により、学習機会を確保し、学習習慣の定着を図る。
- ・放課後補習教室（3，4年）の実施により、個に応じた指導・支援を充実させる。
→個に応じた教材の準備、担任と教室担当者の連携による習得状況の確認。

○算数少人数指導の効果的な実施

- ・テストの見直しまで習熟度別クラスで実施し、未習熟をなくす。

(3) 特定の教科学習を充実させるための取組

○国語科教育の充実

- ・視写、短作文、日記、感想文などに日常的に取り組み、児童が文章を書くことに慣れるようにする。
- ・書くことに関する単元では、例文や書き方のポイントを示し、児童が文章を書きやすくなるようにする。音読、詩の暗唱等、良質な読み物に触れることで、文章を書く素地を築く。
- ・よむYOMUワークシート等を活用し、読むことの指導の工夫と充実を図る。

○理科教育の充実

- ・実験、観察を行うだけでなく、身の回りで見られる科学的な事象と結び付けて実験、観察を

行うことで、「本物」から（体験を通して）学ぶことができるようにする。

- ・『児童の気付きや疑問→予想→実験・観察→結果→考察→まとめ・振り返り』という流れで授業を展開し、学んだことを言語化できるようにノート指導等の工夫をする。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全教科を全国平均正答率以上にする。
- ・意識調査の課題となっている項目をより肯定的にし、安全で安心して学ぶことができる環境の充実を図る。